

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400152		
法人名	株式会社 和乃加		
事業所名	グループホーム アガベ		
所在地	岡山県玉野市八浜町八浜1440-4		
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&idgyosyoCd=3390400152-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 2 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれて立地も良く外部・御家族の方も訪問しやすい所が良い点です。入居されている方に対してはコミュニケーションを重視しており、食事作りや掃除等可能な限り入居者と行うようにしています。コミュニケーションを通じて新しい希望や要望を引き出せるよう努めています。その他、入居前までの生活歴などを考慮しその暮らしの継続ができるようにしていく仕組み作りに取り組んでいます。また職員のチーム力が強く入居者の細かな情報も共有し、小さな変化にも見逃さず、臨機応変に対応している所も私達の強みです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士で情報が共有できる環境が整っている。また、コミュニケーション能力が高い職員が多く、利用者重視の介護が実践されている。職場の雰囲気や職員の笑顔が利用者に反映されており、利用者も穏やかに各自のペースで自由に生活している。また、塗り絵やタオルたたみなど、利用者の残存機能を生かしたレクリエーションや生活支援に取り組んでいる。事業所内の清掃も行き届き、清潔感に溢れ、感染症対策も講じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より事業所としての理念を掲げ、共同スペースなどに開示し理念を共有している。スタッフは理念を念頭に置いて日々のケア及び地域との交流に努めている。	各ユニットの見やすい場所に理念を掲示し、理念である”無償の愛”をミーティングや立ち話の中で話し合い、共有・実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除やイベントには積極的に参加している。また地域の方から声もかかる。	年2回、地域の清掃に職員が参加したり、地域の秋祭りにはお神輿が来たりしている。また、24時間テレビに合わせて事業所主催の夏祭りを行うことで、地域の交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等、地域の方に参加して頂き、認知症の方の理解をして頂くよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、民生委員や家族の参加を呼びかけ運営推進会議を開催している。状況報告や意見交換をしてサービスの向上に努めている。	定期的に行っており、入居・退去、イベント情報や活動報告などについて話し合っている。保育園長からお手玉作りを頼まれ、利用者と一緒に作成するなど、会議での意見や提案を実践している。	運営推進会議に対する幅広い告知・連携と共に、家族の参加率向上に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や包括支援センターの方との交流はあり、意見や、情報を頂くことがある	運営推進会議の案内を民生委員や愛育委員に送付したり、事業所の空き状況等を定期的に市や地域包括支援センターに報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、理解を深めている。玄関の施錠は、状況に応じてしている。また、家族の安心となっている。	市主催の研修に参加し、参加した職員が講師となり、会議やミーティング、運営推進会議等で話し合われている。また、新聞やテレビの情報なども会議の中で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	一部の職員が外部研修を受けその他の職員は研修者から伝達講習を受ける。またニュース等の虐待の情報を随時職員で情報の共有が出来るように対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用している方がいる為、職員は福祉政策課や後見人と情報を共有し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書に沿って説明を行い、納得して頂いたか確認をしながら契約を進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話しやすい雰囲気作りにつとめ、ご家族の訪問に時には積極的に声をかけている。意見箱も見つけやすい場所にある。運営推進会議でもご家族の意見を聞いている。	日常会話の中から利用者本人の意見や要望を聞き、家族の意見や要望は、面会時に聞き取っている。家族からは日常生活に関わる要望が多く、真摯に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より管理者も通常勤務に入っており、気軽に意見を言える状況にある。会議などでも全ての職員が発言、提案できる環境にある。連絡ノートも活用し誰でも記入できるようにしている。	会議や日頃の会話を通して、代表者や管理者が職員一人ひとりの意見や提案を聞いている。利用者の支援に関する事柄が多く、現場の意見として忠実に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の日々の取り組み状況の把握に努めている。また、研修の機会を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修(社外)の機会を提供し、参加者に研修費の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会、情報交換会に参加し、そこの情報を取り入れサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に居宅など訪問し、ご本人の生活環境などをみて、家族、本人の思いをしっかりと聞きアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、契約時などに家族の不安などを和らげられるよう話をしている。要望なども可能な限り対応させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前より、利用者の情報をスタッフ間で共有し、入所と同時に的確な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来ることを個々に見極め、共感し、共に楽しむ事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでもご家族に相談し、ご家族の意見を取り入れながらケアに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	状況に応じて、個々の馴染みの場所に行くことがある。また、馴染みの知り合いが面会に来てくれることもある。	利用者の家族や元職場の同僚等が面会に来ている。また、家族に年賀状を出したり、鷺羽山など、馴染みの場所へ連れて行ったり、ドライブや散歩に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、個々が協力してできるレクリエーションや手伝いをして頂き、利用者同士がより良い関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり、他の施設に移ったりした場合は、介護情報などの情報提供をしている。必要に応じて、相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などから本人の気持ちが把握できるよう努めている。困難な場合は家族の話やご本人の生活歴などから検討している。	利用者の日々の言葉や表情から、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、昔好きだった場所にドライブをしたり、趣味・嗜好品などから情報収集し、アセスメントしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接から生活の状況把握に努め、ご家族からも伺っている。入居後に得た情報も加え把握に努め共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録にて過ごし方の状況を記録している。職員同士の意見交換にてその方の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から意向を伺い、カンファレンスにて、これまでのケアから見えてきた課題を話し合っている。その結果を介護計画に反映している	ケアマネージャーが利用者本人・家族から意向を伺い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にケアプランの会議を行い、半年毎にモニタリング・見直しを行っている。申し送りノートを活用して、各担当職員に周知を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方について状況を詳細に記録するよう努めている。記録にて情報の共有をしている。記録をモニタリングに反映させ、介護計画を作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を伺い、個々のニーズに応じて、望まれる活動への参加を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議より、手芸品作成の依頼があり、今まで得意としてきた利用者を作成して頂いた。また、保育園へ訪問し児童と交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する、かかりつけ医を受診している。また、事業所の医療機関を利用している方に関しては、家族の同意を得ている。	ほぼ利用者全員、協力医がかかりつけ医となり、職員が受診支援している。また、週1回、協力医による訪問診療もあり、24時間体制で支援している。歯科医はその都度、行ったり来てもらったりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	対応方法で不明な点を看護師に相談し日常のケアで実施できるようにしている。看護師のアドバイスから必要な医療の提供をできるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者のADLを伝えている。入院中は病院関係者から情報収集をしている。家族の意向を伺い、退院後の施設での生活に生かせるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、本人家族に対し説明をし同意を得ている。本人の体調変化があった際、家族の意向を聞き、それを元に医師、職員でケアの方針を話し合い、方向性を定め支援している。	入居時、利用者・家族と看取りについて話し合い、同意書を交わしている。管理者間で書籍を読んで勉強するなど、看取りに対しては前向きである。看取りのマニュアル作成は、今後の課題・目標である。	看取りに関わる勉強会やマニュアル作りを通して、職員間での情報共有及び連携強化に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法を受講しAEDの使用方の受講を行い学んでいる。急変時は対応マニュアルに沿って対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。避難場所まで到着する時間の計測、避難経路の確認を行っている。地震・津波避難訓練では八浜小学校八浜認定こども園と合同に行っている	事業所内での避難訓練はこれからであるが、地域の避難訓練に参加したり、運営推進会議を通じて地域との協力体制を築いて行こうと考えている。	避難訓練の定期開催と非常用の備蓄確保について期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、ご家族の意見も取り入れ、個々の尊厳を尊重し、プライバシーに対してもプライドや尊厳を損ねない、さりげない声かけ、ケアをしている。	居室やトイレのドアを開けっ放しにしない、共用空間で大声を出さないなど、利用者のプライバシーや尊厳を守りながら対応している。家族了承の下、「ちゃん」付けで対応している利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を言葉で伝えることが困難な方に対して、選択肢を設けたり、日常での生活の中でボディランゲージ等で対応することに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まった流れはあるが、その時々の利用者の気持ちや体調に合わせて無理強いはいしなく、ご本人のペースで生活して頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し、支援をしている。また、定期的に訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや盛り付け、洗い物など、利用者が出来ることを分担して職員と一緒にやっている。	配食サービスを基本としており、ご飯やみそ汁の具材等に何か一手間加える工夫をしている。また、ちらし寿司や誕生日ケーキなど、利用者と一緒に作ったり、外食支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態が把握できるよう、一覧表に記録の徹底をし、全スタッフが一丸となって取り組み健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人、介助が必要な人など本人の状態に合わせた口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう、個々の排泄パターンをチェック表などで把握し、自分から行きたがらない人にも2～3時間毎に、さり気無く声掛けをしている。	個々の残存機能を重視し、日中は排泄パターンに合わせてトイレ誘導している。現時点でポータブルトイレを使用している利用者はおらず、改善例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、個々の状態を把握し体操や散歩等の運動を取り入れたり、オリゴ糖や食物繊維も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の『今入りたい』という気持ちを尊重している。また個々の状態に合わせて臨機応変に対応している。	週3回以上の入浴支援に取り組んでいる。決して無理強いせず、利用者の表情や気持ちを汲み取りながら、利用者のペースに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣やその時々体調に合わせて、ゆっくり休息、睡眠をとって頂いている。また、十分な睡眠をとって頂けるよう日頃から環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況については、個人ファイルに記載し情報を共有している。誤薬のないように、利用者へ出す前にスタッフ間で確認合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、手伝いや編み物、塗り絵など、本人の希望にそった事をして頂き、気分転換の為の外出も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に添って外出する事があり、訴えない方や車椅子の方も外出する機会をつくり支援している。	リハビリがてらのゴミ捨てや散歩、ドライブ、買い物など、利用者の希望や要望に合わせて支援している。また、家族が迎えに来て、ドライブや外食を楽しんで帰ってくる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの了承を頂いた方は、自分でお金を管理し、買い物にも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだり、本人の希望に応じて電話をかけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整にも気を遣い、天井が高く吹き出し窓や天窓があり、自然の光が多く圧迫感もない。照明調節も行い快適に過ごせる空間づくりに努めている。	利用者が安心してゆったりと寛げる空間作りの工夫として、日頃から照明を調節している。また、共用空間には利用者のぬり絵作品や季節に合わせた写真などが掲示され、居心地の良い場所として皆が集っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合った利用者同士で会話したり。独りになりたい時は、少し離れた場所に座ったり、居室で過ごす方もいる。空間づくりにも気を配り、その時の状況に応じて対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族に馴染みの物を持って来て欲しいと説明し持って来て頂いている。馴染みの物を持って来て頂くことによって、落ち着いた環境づくりに努めている。	居室には利用者の馴染み物が多数持ち込まれ、掃除が行き届いている。また、清潔感もあり、利用者も居心地良く暮らしている。定期的に窓を開け、空気を入れ替えしながら感染予防にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように、個々の状態に合わせて居室やリビングの配置を工夫している。		